

町立奥出雲病院 中期経営計画 点検・評価 報告 (平成27年度)

平成27年度決算が認定されたことを受け27年度事業について点検・評価をしましたので報告いたします。

1. 事業報告

(1) 外来・入院患者数の動向

外来患者数は1日平均164.7人、年間延患者数40,034人で前年度比較489人の減少（対前年度比98.8%）、入院患者数は1日平均117.4人（病床利用率74.3%）、年間延患者数42,952人で前年度比較3,830人の減少（同91.8%）となりました。

外来患者数は前年度と比較して減少しましたが、直近5年間では昨年度に次ぐ2番目に多い患者数でした。入院患者数は、現病床数（158床）になってから最も少ない数値ではありましたが、内科においては708人の増となるなど、診療科によって増減のバラつきがみられました。

(2) 収益的収支

本年度の総事業収益は2,029,571千円で前年度比較25,227千円の減収（対前年度比98.8%）、収益構成は、医業収益が1,580,507千円（同96.6%）、医業外収益が449,064千円（同107.4%）です。医業収益の減少は、一般及び介護入院患者数の減少に伴う減（△75,378千円）が主たる要因と考えられます。一般外来においては患者数は減少しましたが、外科を始めとして多くの診療科で診療単価が増となったことにより、外来収益は21,034千円の増収となるなど増収要素もありました。一般会計繰出金総額は489,082千円で、前年度比較30,981千円の増額となりました。繰出基準の積算方法に変更はありませんが、積算根拠である起債償還額の値が平成25年度の高額医療機器の更新に伴い増嵩したこと等によるものです。一方、総事業費用は1,975,863千円で、前年度比較313,583千円減少（対前年度86.3%）しました。内訳は医業費用が1,870,378千円（同95.9%）、医業外費用が105,486千円（同94.7%）、特別損失が0千円（同皆減）です。医業費用の主なもの、給与費が1,221,649千円、材料費が235,469千円、経費が224,690千円、減価償却費が180,773千円でした。

以上より、営業（医業）損失は289,871千円、経常利益及び純利益は53,708千円となりました。

(3) 資本的収支

資本的収入は、政府企業債などの起債による借入84,600千円と建設改良に対する県補助金5,479千円で合計90,079千円でした。資本的支出は、建設改良費91,352千円と企業債等償還元金273,332千円で合計364,684千円を支出しました。資本的収入額が支出額に不足する額274,605千円は、損益勘定留保資金で補填しました。

(4) 今後の課題について

① 医師の人材確保

国の統計において、島根県は人口10万人当たりの医師数は全国平均以上であるとされていますが、その医師の大部分は出雲医療圏・松江医療圏に集中しており、雲南医療圏の医師不足の状況は変わらず解消されていません。当院においても平成26年4月より8名から6名の常勤医師の体制となり、外来や入院患者の診療はもとより、昼夜を問わず救急患者を受け入れる救急告示病院である当院にとっては、大きな負担を医師にかけている状況です。更に年齢等も考慮すると医師の確保は喫緊の最重要課題であり、引続き大学や県に対しての要望や関係する情報の収集。将来を期待し、研修医・医学生の研修受入、中学生・高校生の職場体験など様々な取組みを行ないながら医師の人材確保に努めます。

② 地域医療構想

少子高齢化の進展と団塊の世代が後期高齢者となり、全国的に医療や介護の需要が急激に増大（2025年問題）することが想定されるのを背景に、国が推進する「地域医療構想」は効率的かつ質の高い医療提供体制の構築、地域の医療提供体制のあるべき姿を明らかにすることを目的としています。現在、島根県は県全体の構想を年内に策定するように進めており、雲南圏域においても関係機関で圏域内の方針について協議中であります。当院においても診療圏域の人口動態や年齢構造はもとより、患者の医療動向や必要な医療機能（ニーズ）などの地域の実態を踏まえて、引続き検討を重ねて参ります。

③ 地域包括ケアシステムの構築

「住み慣れた地域で安心して日常生活が送れるよう医療や介護を切れ目なく提供すること」を理念とした「地域包括ケアシステム」の取組みが全国的に加速していますが、このしきみを構築して行くには、行政、医療、福祉分野の関連機関が連携して取組む必要があり、より良いシステムづくりに医療機関のひとつとして連携に努めて参ります。

上記の様々な課題に対して、今後の病院運営の指針となる「新公立病院改革プラン」の策定にあたり、地域医療構想や地域包括ケアシステムの具現化。更に、平成30年度に新たにスタートする第7次医療計画及び第7期介護保険事業（支援）計画への対応。また、同時期に改定が予定されている診療報酬と介護報酬など、医療や介護をとりまく環境は大きな転換期を迎えることとなります。当院は地域医療の中心となる自治体病院として関係機関と連携し、定住対策の重要なひとつである「安心して暮らせる地域づくり」に貢献できるよう努めます。

2. 評価一覧

| 項目 | 取組・目標 | 実績・状況 | 評価・課題 |
|---------------|--|--|---|
| 1. 経営の効率化 | <p>(1) 増収対策</p> <p>① 診療単価と病床利用率のアップを目指す</p> <p>② 看護基準10:1の堅持</p> <p>③ 検診・ドックの充実</p> <p>④ 過年度未収金の回収</p> <p>⑤ 地域に開かれた病院づくり</p> <p>⑥ 病診連携の充実</p> <p>(2) 経費節減対策</p> <p>① 人件費の抑制</p> <p>② 材料費節減</p> <p>③ 委託料見直し</p> <p>④ 光熱費の節減</p> <p>⑤ 消耗品・日用品の購入抑制</p> <p>(3) その他の事項</p> <p>① サービス向上について</p> <p>② 民間的経営手法の研究</p> <p>③ 一般会計繰出金について</p> <p>④ 職員の福利厚生について</p> | <p>・単価は全科トータルで、外来=600円、入院=852円のアップ。病床利用率は毎日確認し共通認識を図った。</p> <p>・人員増と効率的な看護職員配置に配慮し基準10:1堅持。</p> <p>・実施件数平年並み。検査項目及び割引率等の見直しを実施した。</p> <p>・回収率:H26度=78.3%→H27=77.8%の結果となった。</p> <p>・病院HP更新、新人看護研修の様子など頻回実施。</p> <p>・地域医療研修会継続開催。</p> <p>・人事考課を継続実施。</p> <p>・診療材料検討委員会を中心に経費節減対策継続。薬剤科でベンチマークシステム稼働中。</p> <p>・委託料及び委託業務の見直し継続実施。</p> <p>・灯油毎月見積入札等経費節減対策継続。</p> <p>・破損、修理、購入等稟議厳格化により経費節減意識の更なる定着達成。</p> <p>・患者満足度調査継続実施。快適な療養環境確保の為室温計測。病院HP充実。</p> <p>・栄養科調理部門外部委託検討継続→H28年度より外部委託決定。検査委託項目検討実施。</p> <p>・繰出基準の厳守を継続。過疎債ソフト事業を活用した医師確保対策等支援継続。</p> <p>・職員のメンタルヘルス対策を継続実施。医療従事者の離職防止と働きやすい環境づくりに配慮。院内保育施設の安全な運営について心掛けた。</p> | <p>入院患者数は42,952人で、前年度と比較して3,830人減（病床利用率74.3%）であった。外来患者数は40,034人で、前年度と比較して489人減であったが、診療単価のアップを主要因に外来収益は対前年比18,965千円の増となった。その他、高度医療整備に係る一般会計繰出し金の増など増収要因もあったが、入院収益の減少の影響が大きく、収益的収入は対前年度比25,227千円の減となった。人口減少等厳しい状況ではあるが、入院患者数の確保が望まれる。</p> <p>経費節減の意識は職員に浸透しており、今後もこの状況を継続して保ちたい。収益的支出が増加した費目は、職員数の増加に伴う人件費、化学療法法の症例増等に伴う注射薬剤費（一方で収益も上がっている）、電子カルテの保守開始に伴う委託料などであった。一方、収益的支出が減少した費目は価格の下落に伴う燃料費、耐用年数満了に伴う減価償却費、企業債利息などであった。</p> <p>患者様に対するサービス向上を目的に、満足度調査・意見箱の設置を継続している。貴重な意見を頂戴している（院内に掲示）ので、病院経営に生かすことが必要。職員の職場環境への配慮としては、カウンセリングの機会を提供したり院内保育所の開設を継続している。院内保育施設の利用実績は、H26延べ利用数267人（83回開設）→H27延べ利用数214人（71回開設）であった。</p> |
| 2. 経営形態の見直し | <p>① H20.5最終検討会にて見直ししないことを確認。</p> <p>② 療養病床の形態検討</p> | <p>—</p> <p>・情報収集継続中。国の「療養病床の在り方等に関する検討会」の資料が県経由で提供された。</p> | <p>療養病床の形態については、国の「療養病床の在り方等に関する検討会」の資料が示された。平成29年度末には廃止となるのでそれまでに方向性を定めること。</p> |
| 3. 再編・ネットワーク化 | <p>① 再編については、島根県保健医療計画及び公立病院の再編ネットワーク化についての検討をふまえ、雲南地域医療関係者連絡会にて実施しない旨確認済み。</p> <p>② 4疾病5事業について島根県保健医療計画により、医療機能の分担と連携を推進する。</p> | <p>—</p> <p>・情報提供及び医療機能の分担に基づく紹介逆紹介等について他院との連携をすすめた。当院への紹介件数1,176件。</p> | <p>高次病院との連携については、医療機能により当院側からも依存する部分が多くある。各職種レベルでの情報共有及び連絡を密にし、更なる円滑な協力体制の構築に向け引き続き努めること。またドクターヘリ等の救命手段を最大限有効活用すること。新病院改革プランの策定期限が平成28年度末となっている。ガイドラインに沿って、病院のあるべき姿・将来像について協議を早急に進めること。</p> |

3. 数値目標の達成状況

(単位千円：税込)

| 項目 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | | | 目標達成 | 備考 |
|----------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------|----------------------------------|
| | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 実績 | 目標(A) | 実績(B) | B/A*100(%) | | |
| 医業収益 | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 1,622,469 | 1,567,992 | 1,498,612 | 1,534,835 | 1,572,813 | 1,601,996 | 1,644,667 | 1,597,337 | 1,588,422 | 99.4% | | |
| 入院収益 | 1,144,662 | 1,105,254 | 1,023,232 | 1,039,765 | 1,095,519 | 1,131,912 | 1,155,267 | 1,100,633 | 1,079,889 | 98.1% | | 入院患者数対前年比3,830人減少 |
| 外来収益 | 326,037 | 272,517 | 257,286 | 261,670 | 267,642 | 263,085 | 272,514 | 262,699 | 291,479 | 111.0% | ○ | 外来患者数対前年比489人減少するも診療単価UPにより目標達成 |
| その他 | 151,770 | 190,221 | 218,094 | 233,400 | 209,652 | 206,999 | 216,886 | 234,005 | 217,054 | 92.8% | | ドッグ健診・補助金・一般会計繰出金等 |
| 医業費用 | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 1,803,623 | 1,758,580 | 1,683,609 | 1,770,676 | 1,916,898 | 1,881,949 | 1,984,288 | 1,842,737 | 1,904,627 | 103.4% | | |
| 給与費 | 1,077,236 | 1,061,823 | 1,023,646 | 1,083,432 | 1,173,789 | 1,153,323 | 1,206,137 | 1,095,581 | 1,222,246 | 111.6% | | 正職2名・嘱託6名増、及び人勦による追加支給等により対前年度比増 |
| 材料費 | 255,528 | 214,381 | 195,229 | 223,359 | 239,643 | 243,491 | 244,834 | 225,151 | 254,306 | 112.9% | | 注射薬剤費増。外来化学療法症例が増加したためと思われる。 |
| 経費 | 229,560 | 235,082 | 230,501 | 229,358 | 263,557 | 246,704 | 237,976 | 231,299 | 239,224 | 103.4% | | |
| 減価償却費 | 236,903 | 243,405 | 227,876 | 228,926 | 234,083 | 224,272 | 284,944 | 285,091 | 180,773 | 63.4% | ○ | 建物附属設備の償却が終了したため減少 |
| その他 | 4,396 | 3,889 | 6,357 | 5,601 | 5,826 | 14,159 | 10,397 | 5,615 | 8,078 | 143.9% | | |
| 医業損益 | -181,154 | -190,588 | -184,997 | -235,841 | -344,085 | -279,953 | -339,621 | -245,400 | -316,205 | 128.9% | | |
| 医業外収益 (町補助金等) | 281,902 | 297,029 | 314,191 | 315,107 | 337,982 | 323,690 | 418,705 | 322,634 | 449,653 | 139.4% | ○ | 一般会計負担金(高度医療に対する繰入)増加 |
| 医業外費用 (企業債利息等) | 107,777 | 105,746 | 126,568 | 101,501 | 85,666 | 88,509 | 86,398 | 88,140 | 79,740 | 90.5% | ○ | 繰延勘定償却・企業債利息等減少 |
| 経常損益 | -7,029 | 695 | 2,626 | -22,235 | -91,769 | -44,772 | -7,314 | -10,906 | 53,708 | -492.5% | ○ | 対前年比61,022千円改善(黒字決算) |
| 特別利益 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | |
| 特別損失 | 0 | 0 | 0 | 17,117 | 0 | 0 | 227,335 | 0 | 0 | | | |
| 収入合計 | 1,904,371 | 1,865,021 | 1,812,803 | 1,849,942 | 1,910,795 | 1,925,686 | 2,063,372 | 1,919,971 | 2,038,075 | 106.2% | ○ | 外来収益及び医業外一般会計負担金の増 |
| 支出合計 | 1,911,400 | 1,864,326 | 1,810,177 | 1,889,294 | 2,002,564 | 1,970,458 | 2,298,021 | 1,930,877 | 1,984,367 | 102.8% | | |
| 減価償却前純利益 | 229,874 | 244,100 | 230,502 | 189,574 | 142,314 | 179,500 | 50,295 | 274,185 | 234,481 | 85.5% | | |
| 純損益 | -7,029 | 695 | 2,626 | -39,352 | -91,769 | -44,772 | -234,649 | -10,906 | 53,708 | -492.5% | ○ | 対前年比61,022千円改善(黒字決算) |
| 累積欠損金 | -1,435,673 | -1,434,978 | -1,432,352 | -1,471,704 | -1,563,473 | -1,608,245 | -1,738,244 | -1,749,150 | -1,684,536 | 96.3% | ○ | |
| 経常収支比率 | 99.6% | 100.0% | 100.1% | 97.9% | 95.4% | 97.7% | 99.6% | 99.4% | 102.7% | 103.3% | ○ | |
| 職員給与費対医業収益比率 | 66.4% | 67.7% | 68.3% | 70.6% | 74.6% | 72.0% | 73.3% | 68.6% | 76.9% | 112.2% | | |